

第一分科会

主題 PTA活動の活性化について

発表校 埼玉県立越谷特別支援学校



本校の特徴



越谷特別支援学校は、昭和52年開校、もうすぐ開校50周年を迎える児童生徒数226名、教職員数226名を抱える大規模な肢体不自由単独校です。

埼玉県東部に位置し、8市1町からなる広い通学区域をカバーしています。

埼玉県の肢体不自由特別支援学校では、4つの教育課程を編成し、児童生徒それぞれの学びのニーズに応じた教育活動を行っています。

本校は、寄宿舎を保有している稀有な学校としても知られています。





PTAとは何か

子どもたちのために
子供達の学ぶ環境をより良く
するための組織です。

保護者と教師の協力
保護者と教師が協力して子ど
もの教育環境を整えます。

学校と家庭の架け橋
学校と家庭をつなぎ、より良い教育環境を作ります。





昨今の課題

共働き家庭

増加

時間的制約が大きくなっています

負担感

高まる

活動の量と質の見直しが必要です

改革の動き

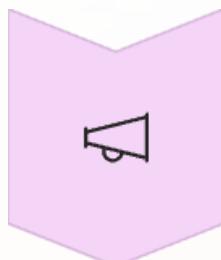
広がる

無理なく意味のある活動を目指
ています





特別支援学校におけるPTA



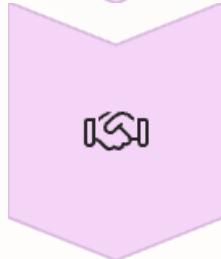
子どもの声の代弁

多様なニーズに合わせた活動が求められます



陳情書の作成

埼玉県に対して学ぶ環境改善のために毎年提出します



学校間の連携

全国および地域の肢体不自由校との情報交換をしています



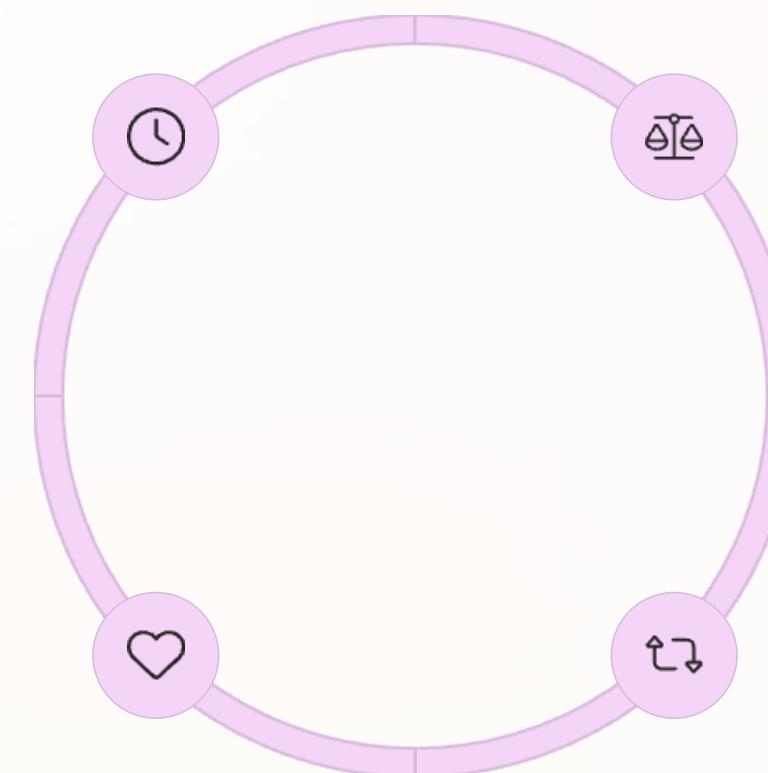
特別支援学校PTA活動の見直しポイント

時間の確保

保護者自身が子供のケアに費やす時間が
膨大です

子どもとの時間

PTA活動で子どもとの時間が減らないよう
にします



負担のバランス

活動負担が個人に集中しないよう配慮が
必要です

活動の効率化

必要な活動に絞り、効率的に運営します



コロナ禍を経ての変化

1 コロナ禍前

対面での活動が中心でした

2 コロナ禍中

活動の大幅な制限がありました

3 コロナ禍後

簡略化できる部分に気づき、新しい形を模索しています



PTA活動再開後の 活動内容①



災害対策コーヒー

蓄電池を活用し、防災意識を高めながら交流できる場を作りました。温かい飲み物を提供し、自然と会話が弾みました。



QOLOの体験

新しい技術や福祉機器の開発企業をお呼びして体験会を実施。児童生徒が実際に試乗し、可能性が広がりました。

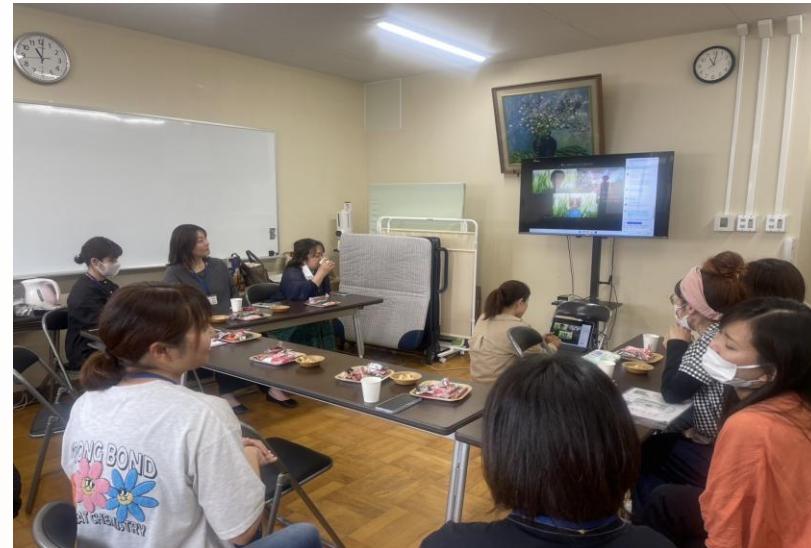


形態食の試食会

保護者同士で摂食や食形態の悩みを話し合い、便利なグッズについて情報交換ができました。



PTA活動再開後の活動内容②



訪問・通学交流会

医ケア茶話会として交流会を設けました。ハイブリッド開催で多くのご家族に参加いただきました。



タッチケアの体験会

ケアする人にもケアが必要という観点から、スウェーデンタッチケアを学び体験しました。



講演会の開催

障害年金や防災についての講演会をハイブリッド形式で実施しました。



活動を振り返って

- ・ 参加者の声①「保護者と知り合う機会がなかったので、ありがたかった」
- ・ 参加者の声②「イベント準備が学生時代に戻ったようで、楽しかった」

場を設けること、そのものの効果を感じることができました。

今後も、子供たちの学習環境を整えるという目的のために、何ができるか、どうできるか、前向きに考えていきます。



意見を集める仕組みの改善



従来の紙面方式

回収率の低さが問題でした



デジタルツールの活用

グーグルフォームやラインワークスのアンケート機能を導入しました



アクセスの簡便化

QRコードで簡単に回答できるようになりました

陳情書作成など子どもの権利擁護のため、より幅広く意見を集められるようになりました。外国語話者への配慮も今後の課題です。



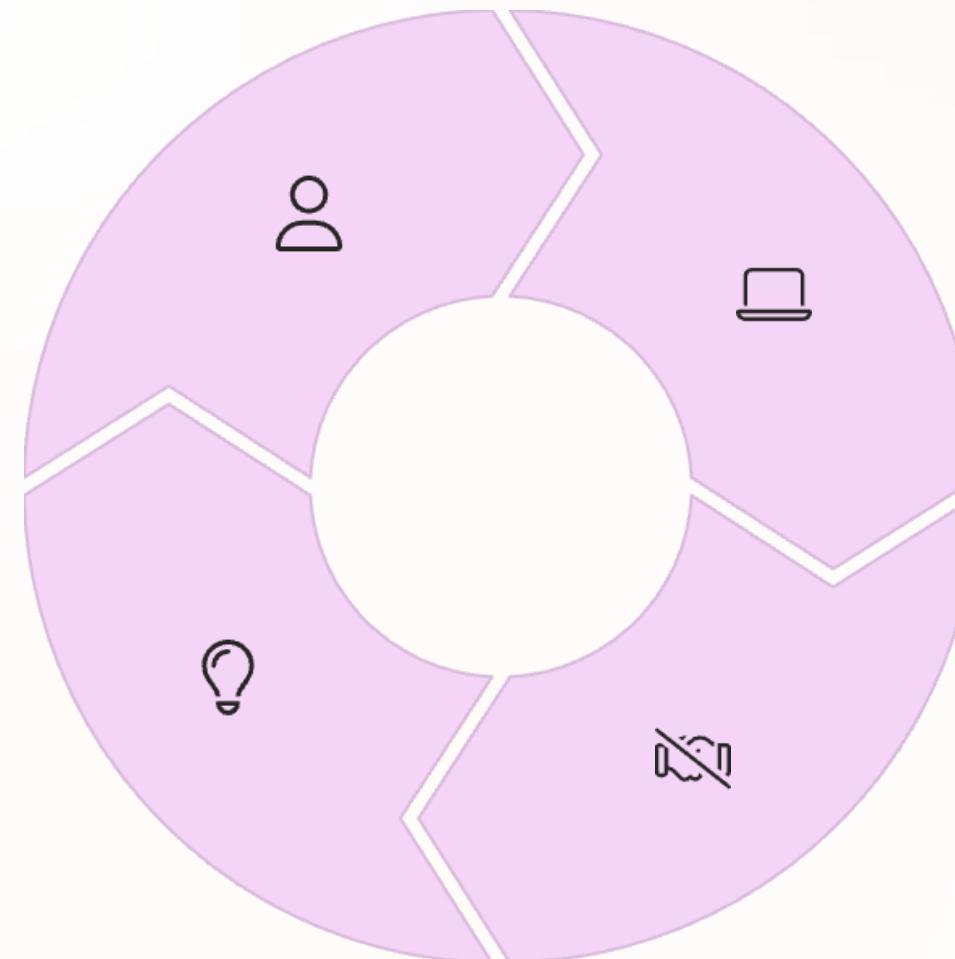
PTA活動～これからのカタチ～

参加しやすい開催方法

教育形態、子供の障害の状況にとらわれず、オンラインやハイブリッド開催で距離のハードルを下げます

活動の質の向上

学校、子供、保護者にとって、意義ある活動を厳選します



デジタル化の推進

通信アプリなど、新ツールを採用し、連絡や資料共有を効率化します

地域との連携

地区活動、支援籍学習、コミュニティスクールなどを通じて地域で生きる力を育みます

